



ロンドン五輪と自転車政策② Cycle Superhighways

ロンドン五輪に向けた自転車レーン整備計画

前号に引き続き、ロンドン五輪(2012年開催)を契機としたロンドンの自転車政策を紹介します。環境五輪を目指すロンドンでは、自転車利用を促進するために市の中心部から郊外まで放射状に伸びる自転車道路網(CS; Cycle Superhighways)を計画します。図1にあるように、CS1からCS12まで全部で12本、総延長約150km(単純平均で1本の自転車道は12.5km)と大きな目標を掲げました。自転車レーンの幅は1.5mを確保し、目立つように青くペイントする計画でした。

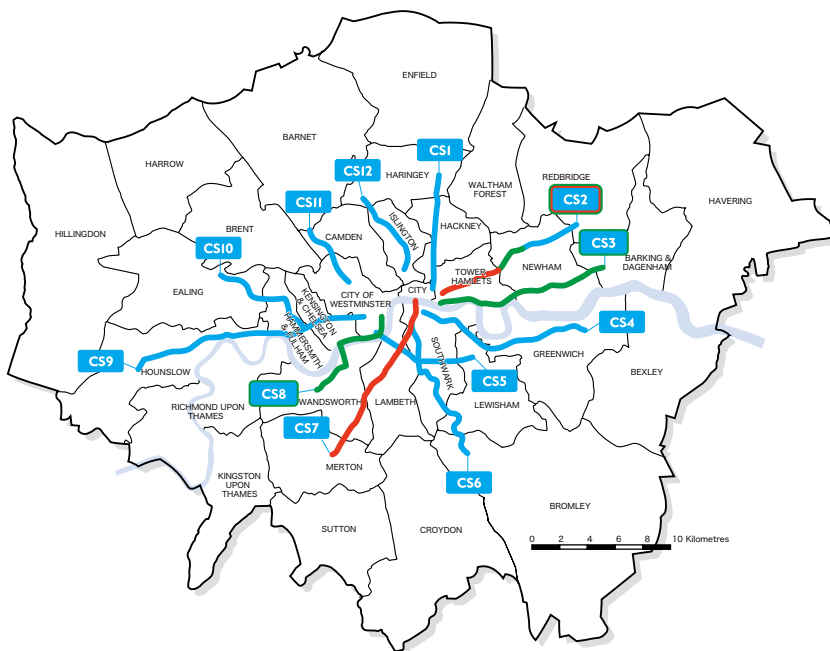
しかしながら、ロンドンは東京同様に狭い道路が多く、1.5m幅の自転車レーンを新たに確保するのは困難で、オリンピックまでに整備できたのは、図1の赤で示したCS2の一部とCS7の合計約18kmにすぎません。

オリンピック後でも、CS2の延伸とCS3、CS8の整備(図1の緑の部分)にとどまり、自転車レーン整備はなかなか進んでいません(2014年7月の調査時点)。

第1期(オリンピック開催まで)の自転車レーン

CS2は中心市街地から北東に伸びる路線です。この計画道路の途中にオリンピックのメインスタジアムがありますが、オリンピック会場付近までの整備は間に合いませんでした。しかも自転車専用レーンではなく、写真①のように既存のバスレーンの左側を青くペイントして自転車とバスの共用ゾーンとしています。しかし自転車の利用者が多いためバスレーンいっぱいになり自転車が広がって走行することも多く、バスが第2車線を走行する場面も見られます。しかも交差点部分では左折する一般車もレーンに入ってくるため、非常に危険を伴います(写真

図1 Cycle Superhighways の路線図



写真①：バスレーンの中に設けられた自転車レーン(CS2)



写真②：左折車と交錯する自転車(CS2)